

1月の園だより

平成22年1月1日 発行 おばやし保育園

あけましておめでとうございます

本年も“保育園が子どもたちにとって安心して一日を過ごせるところ”であるよう職員一同努力して参ります。この保育の基本を忠実に守っていくことが私どもおばやし保育園の保育の原点であると考えます。

さて、お正月は楽しく過ごすことが出来ましたか？今年も新たな気持ちで子どもたちと楽しくそして元気よく園生活を送りたいと思います。これから3月まで、とても短い期間ではありますが、進級・進学に向けて、子どもたちの心と体がよりいっそう成長する時期です。一日一日を大切に、子どもたちの心の動きをより深く見つめ、一人ひとりが充実した園生活を送ることが出来ますように、ご家庭との連携を大切にしていきたいと思ひます。

冬の贈り物

年末から新年にかけて厳しい寒さが続いています。園庭の水溜りに氷が張り、集まった子どもたちは朝から大にぎわいです。「きれい！」「すごい！こんなに大きいよ！」と夢中になって見つけた氷は子どもたちの宝物。ほかにも、霜柱をたくさん見つけて「おみやげ！」と袋やカップの中へ…。帰るころに溶けてしまっていると「どうしてかな？」と不思議顔。冬の自然は子どもたちの心に、たくさんときめきを届けてくれています。

1月の目標

ヒヨコ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で体を動かして遊ぶ。 ・ 寒い冬も元気に過ごしましょう。
ウサギ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寒さに負けずに戸外で元気に遊ぶ。
すみれ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活のリズムを整えながら身のまわりのことをていねいに行う。 ・ マラソンで元気な体を作る。
さくら	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの思いを出しながら、正月遊びを楽しむ中で、友だちとのつながりを深めていく。 ・ 冬の自然に興味を持ち、ふれたり試したりして楽しむ。
うめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正月の遊びを友だちと楽しむ中で、工夫したり文字や数に興味を持つ。 ・ 冬の自然現象に関心を持ち健康な生活の仕方を知る。

1月の行事予定

- 5日(火) 新年会
- 13日(水) 交通安全
- 19日(火) 朝のマラソン開始
- 20日(水) 避難訓練(地震 15:00-)
- 26日(火) 園外保育(凧揚げ)
- 29日(金) お誕生会

*丈夫な体作りのため、朝のマラソンを始めます。
*小林小学校との交流会を行います。

朝のマラソンが始まります

冷たい空気の中で、身も心もキリッと引き締まります。今月から体力作りのために朝のマラソンを開始します。どんなに寒くても子どもたちはお外で走りまわるのが好きですね。体調を整えてできるだけ参加しましょう。幼児期から体を動かす楽しさを経験することが将来のおおきな財産になります。

*体調の悪いときは、必ず担任までお知らせ下さい。

おたんじょうびおめでとう!

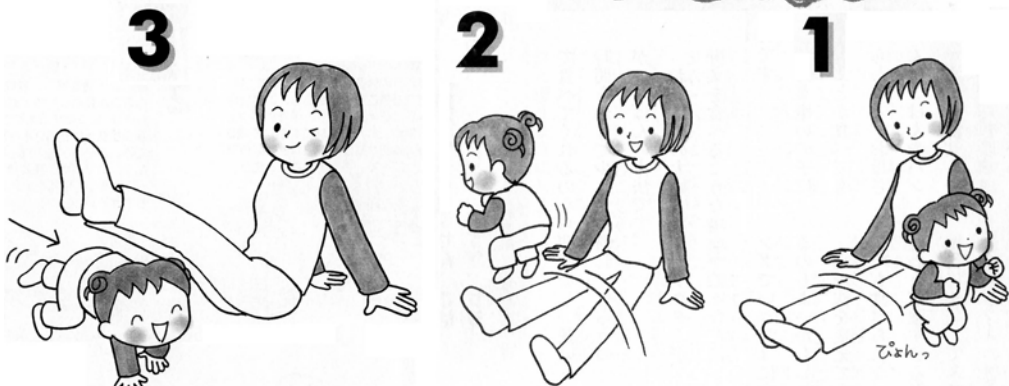
- 2日 えぐちひろえちゃん(5さい)
- 9日 いしいあんなちゃん(6さい)
- 21日 たかまつゆづきちゃん(5さい)
- 24日 しまだまゆちゃん(5さい)

運動能力を育てる！ 親子のエクササイズ

ドッキング体操⑩

脚力と瞬発力をつける！

『跳んで！くぐって！』



1 じゃぶじゃぶにジャンプができるようになったら、お母さんは足を空中に上げ、子どもはそその下をくぐります。2と3の動作を5~10回程度繰り返してみましょう。

2 慣れてきたら、お母さんは足を横に開いていき、子どもが跳びこえる長さを少しずつ伸ばします。お母さんは足を伸ばして座ります。最初は足の間をくっつけて始めましょう。子どもは両足でお母さんの両足を跳びこえます。

*急な運動はからだの負担になるので、しっかりと準備体操をしてから行いましょう。

子どもの能力を育む

ワンポイントコラム

この運動は立ち幅跳びの練習になり、脚力と瞬発力が向上します。パワーをためて一気に力を出すこともからだで覚えるでしょう。お母さんが足を開きすぎたり、急に足を動かしたりすると、子どもの負担になりけがのもとになるので、ようすを見ながらゆっくりと調節してください。また、足を踏まれないように注意してくださいね。

第10回 小学校へつなげる生活習慣 鉛筆、ちゃんと持てるかな？

鉛筆を正しく持てるということは、正しい姿勢が身についているということです。子どもが鉛筆をつかう機会をただ増やすだけでなく、いっしょに正しい持ち方も教えていきたいですね。

お母さま方の中には、「箸が正しく持てれば鉛筆も正しく持てる」と聞かされた方も多いのではないでしょうか。試しに鉛筆を二本、箸を持つようにして、何かを食べる動作をしてみてください。そして、下側の鉛筆を抜いてみてください。残った鉛筆が、字を書くときの正しい持ち方なのです。元来、箸の生活をしてきた日本人の多くは、難なく鉛筆をつかうことができた。ところが、小学五年生を対象にした近年の調査によれば、正しい箸の持ち方をしているのは、六割に満たないといふことなのです。つまり、四割以上の子どもが、鉛筆を正しく持てていないというわけです。鉛筆の持ち方は、姿勢と密接に関係しています。鉛筆の持ち方が悪いと、書いてる字が正面から見にくく、のぞき込むような姿勢になっていきます。その姿勢は、視力の低下や背骨のゆがみにつながります。悪い姿勢は、指や手、腕、肩、首にも負担がかかり、疲れや不快感が生じ、集中力を損なっています。鉛筆をつかって書く活動を取り入れたら、自由につかえるように用具棚に出しておいたりしている園もあることでしょうか。しかし、子どもたちが鉛筆をつかう経験を重ねていくことが優先されてしまっている場合も多いのではないのでしょうか。子どもたちが書く楽しさを味わっていく中で、園と家庭とが協力して、正しい鉛筆の持ち方を子どもたちに伝え、身につくように働きかけていきたいものです。